

2. 掘削調査状況報告（速報） （平成20年2月6日まで）

〔第8回専門部会〕

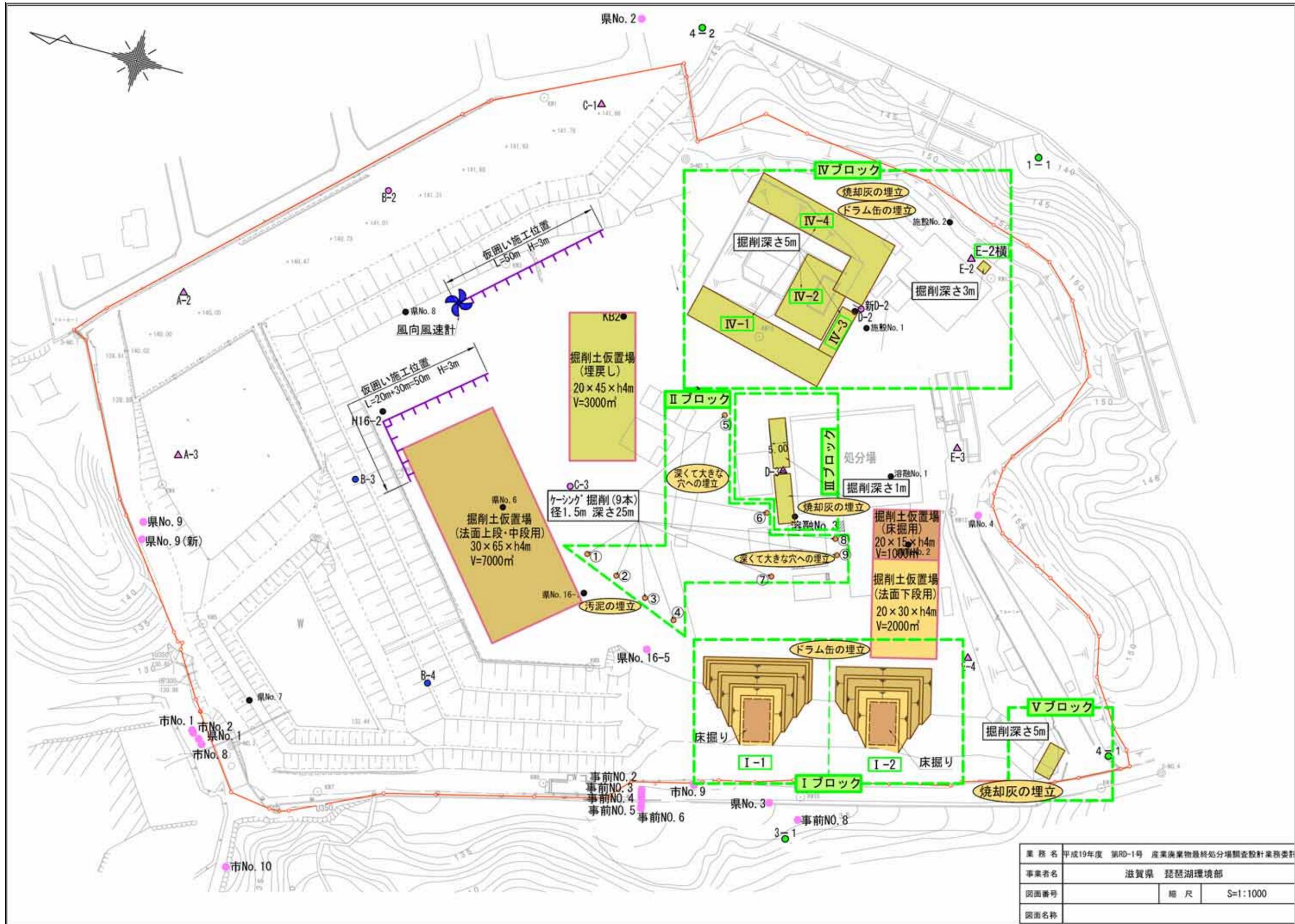
平成20年 2月

滋賀県琵琶湖環境部最終処分場特別対策室

< 目 次 >

資料 2 . 掘削調査状況報告(速報)
(平成 20 年 2 月 6 日まで)

1 . 掘削調査概要	- 2 -
2 . 各ブロックの調査状況	- 4 -



業務名	平成19年度 第RD-1号 産業廃棄物最終処分場調査設計業務委託		
事業者名	滋賀県 琵琶湖環境部		
図面番号	縮尺	S=1:1000	
図面名称			

掘削計画平面図

1 . 掘削調査概要

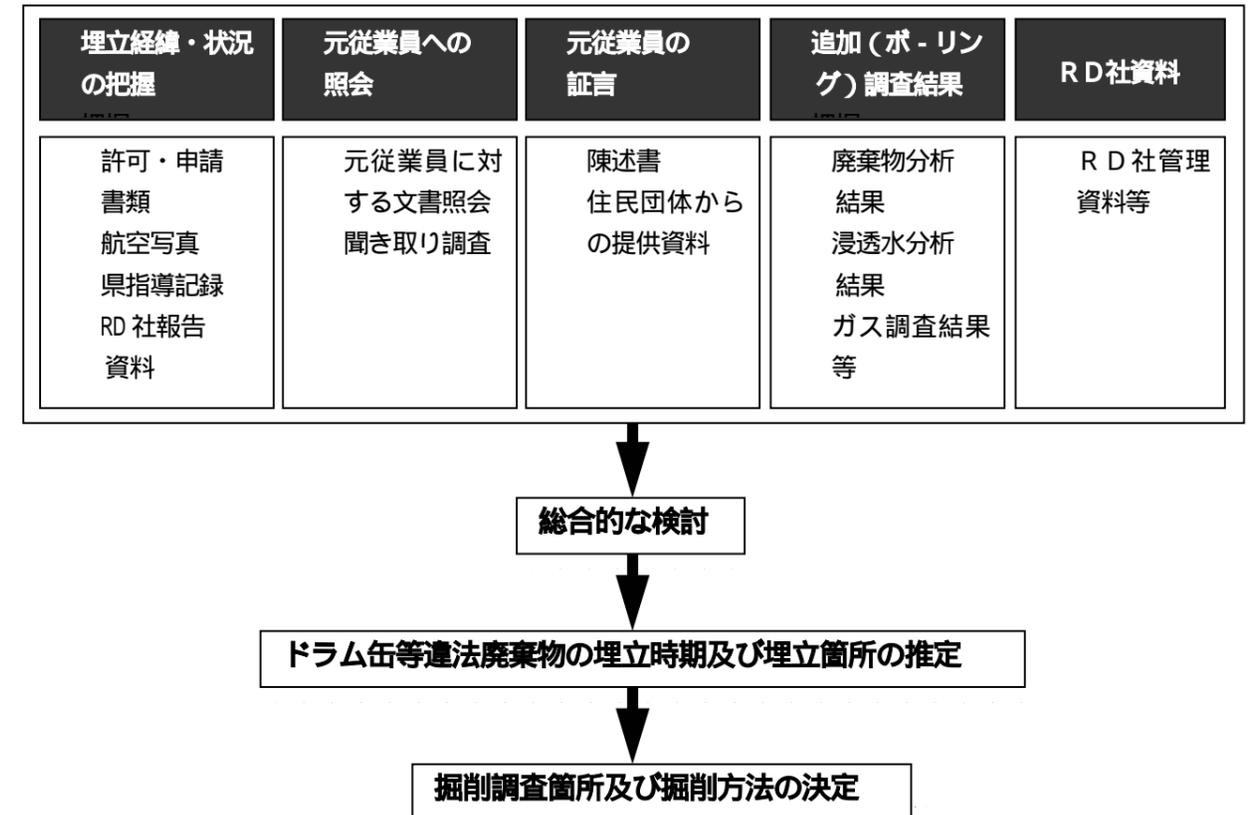
1.1 目的

掘削調査は、不適正処分の状況を調査することにより、生活環境保全上の支障除去の検討及び不適正処分を行った事業者等の責任を追及するために実施している。

1.2 調査箇所の選定

(1) 選定方法

掘削調査箇所の選定は、埋立経緯や元従業員の証言およびこれまでのボ - リング・分析調査結果などから選定した。



(2) 掘削調査箇所

掘削調査の箇所は、前頁に示したとおり下記の5ブロックである。

ブロック名	掘削調査箇所	掘削方法	調査箇所数
ブロック	西市道側法面	バックホーによる掘削	2箇所
ブロック	処分場上面	ケ - シング掘	9箇所
ブロック	処分場上面	バックホーによる掘削	1箇所
ブロック	処分場上面	バックホーによる掘削	5箇所
ブロック	正面入口付近	バックホーによる掘削	1箇所



写真 1.2.1 掘削調査箇所位置

2. 各ブロックの調査状況

2.1 ブロック

ブロックでは、ブロックの1と2で累計で約2,185 m³を掘削した。

調査日毎の実績・累積の掘削量は、表2.1に示すとおりである。

廃棄物の種類等

土砂のほか確認された廃棄物としては、主体としてコンクリート片、金属類、プラスチック、ビニールなどが確認された。

他、ドラム缶などの異物については次のとおりである。

- 1) ドラム缶 : ブロックの2で、つぶれた空のドラム缶2個を確認した。
- 2) コンデンサ : ブロックの2で、複数種のコンデンサが24リットル容の箱で約4箱分が埋められていることを確認した。
このコンデンサは型番が判読できるものはメーカーに問い合わせし、PCBの含有がないことを確認した。
- 3) 白い固形物 : ブロックの2で、白い固形物(10kg袋が10袋以上)を確認した。
現地でpH値を測定をしたところ、一部がpH値11を示した。
この白い固形物は分析の結果、重曹であることが判明した。

2.2 ブロック(ケーシング掘削)

ブロックでは、2月5日に を、2月6日に の位置においてケーシング掘削により廃棄物の掘削を行い、3m毎に採取した廃棄物の観察とケーシング孔内のガスの測定を実施した。

廃棄物の種類等

確認した廃棄物は、表2.2に示す。

と のケーシング孔で確認した廃棄物は、同じ構成となっている。

表2.1 廃棄物等掘削量一覧表

ブロック名	の1(北側)		の2(南側)	
	実績 [m]	累積 [m]	実績 [m]	累積 [m]
H19.10.30	0	0	275	275
H19.10.31	0	0	490	765
H19.11.1	320	320	160	925
H20.2.4	0	320	0	925
H20.2.5	380	700	0	925
H20.2.6	0	700	560	1485

表2.2 廃棄物の種類

掘削深度	ブロック 〔廃棄物埋立深さ 12.3m〕	ブロック 〔廃棄物埋立深さ 10.8m〕
深度 0~3m	土砂、コンクリートガラ、鉄筋、ビニール片、木片、紙くず、プラスチック、ゴム	土砂、コンクリートガラ、鉄筋、ビニール片、木片、紙くず、塩ビ管、プラスチック、ゴム
深度 3~6m	コンクリート片、紙くず、鉄筋、ビニール、ブロック、タイル、瓦片、金属類	紙くず、鉄筋、ビニール、ブロック、タイル、瓦片、空き缶、コンクリート片、発泡スチロール、断熱材、金属類
深度 6~9m	木くず、紙くず、ビニール片、ゴム、コンクリートガラ、プラスチック、レンガ片	レンガ片、ビニール片、ゴム、木くず、紙くず、コンクリートガラ(25cm程度の柱状)、プラスチック
深度 9~12m	木くず、ビニール、紙くず、レンガ、コンクリートガラ、プラスチック片、ビニール	コンクリートガラ、軽量コンクリート、木くず、縄、ビニール、紙くず、レンガ 深度 10.8mにおいて地山を確認し、深度 14.2mにて掘止めとする。
深度 12~15m	コンクリートガラ、木くず、ビニール、紙くず、レンガ 深度 12.3mにおいて地山を確認し、深度 15.35mにて掘止めとする。	

有害ガス等測定結果

表2.3に硫化水素等の有害ガス測定結果を示す。

可燃性ガスは、 と の両方のケーシング孔で確認されなかった。

硫化水素は、 のケーシング孔とも浅部で確認され最大濃度は1.5ppmであった。

二酸化炭素は、0.0~0.1%の検出であった。

アンモニアは、孔は深度9.0m以深で2.0~3.5ppm検出され、孔は深度6.0mでのみ1.0ppm検出された。

揮発性有機化合物は、 のケーシング孔とも不検出であった

表2.3 有害ガス等の測定結果

測定日時	深度 [m]	酸素 [%]	有害ガス				揮発性有機化合物				孔内温度 []	気温 []
			可燃性ガス [%]	硫化水素 [ppm]	二酸化炭素 [%]	アンモニア [ppm]	トリクロロ エチレン [ppm]	1,2-ジクロロ エチレン [ppm]	テトラクロロ エチレン [ppm]	ベンゼン [ppm]		
ケーシング孔 ブロック : 平成20年2月5日												
11:28	3.00	21.0	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	10.5	7.5
12:05	6.00	20.9	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	13.6	7.5
13:40	9.00	21.0	0.05	0.5	0.00	3.5	ND	ND	ND	ND	14.7	7.5
14:20	12.00	20.8	0.00	0.0	0.10	3.5	ND	ND	ND	ND	19.4	7.0
15:21	15.35	21.0	0.00	0.0	0.05	2.0	ND	ND	ND	ND	18.7	9.0
ケーシング孔 ブロック : 平成20年2月6日												
9:57	3.00	21.0	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	7.5	4.0
10:34	6.00	21.0	0.00	1.5	0.10	1.0	ND	ND	ND	ND	11.7	8.0
10:50	9.00	21.0	0.00	0.0	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	13.0	8.0
11:40	12.00	20.7	0.00	0.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	16.7	10.0

2.3 ブロック

ブロックでは、ブロックの1で試掘 80 m³と ブロックの4で累計 830 m³を掘削した。

廃棄物の種類等

土砂のほか確認された廃棄物としては、主体としてコンクリート片、金属類、プラスチック、ビニールなどが確認された。

他、ドラム缶などの異物については次のとおりである。

- 1) ドラム缶 : ブロックの1から2個、ブロックの4から7個の累計9個が確認された。
その内容物の内訳は表2.4に示す。
- 2) 医療系廃棄物 : ブロックの4では、医療系廃棄物が集中して埋め立てられていた。
- 3) 金属くず : ブロックの1では、金属くず(鉄筋)が集中して埋め立てられていた。

表2.4 ブロックにおけるドラム缶内容物の内訳

ブロック名称	2月4日(月)掘削	2月5日(火)掘削
ブロックの1	空(潰れている), コンクリート	
ブロックの4	空(潰れている), 空(潰れている)	~ 油状の内容物 コンクリート, 油状の内容物

囲いの数値は、ドラム缶の固有の を示す。

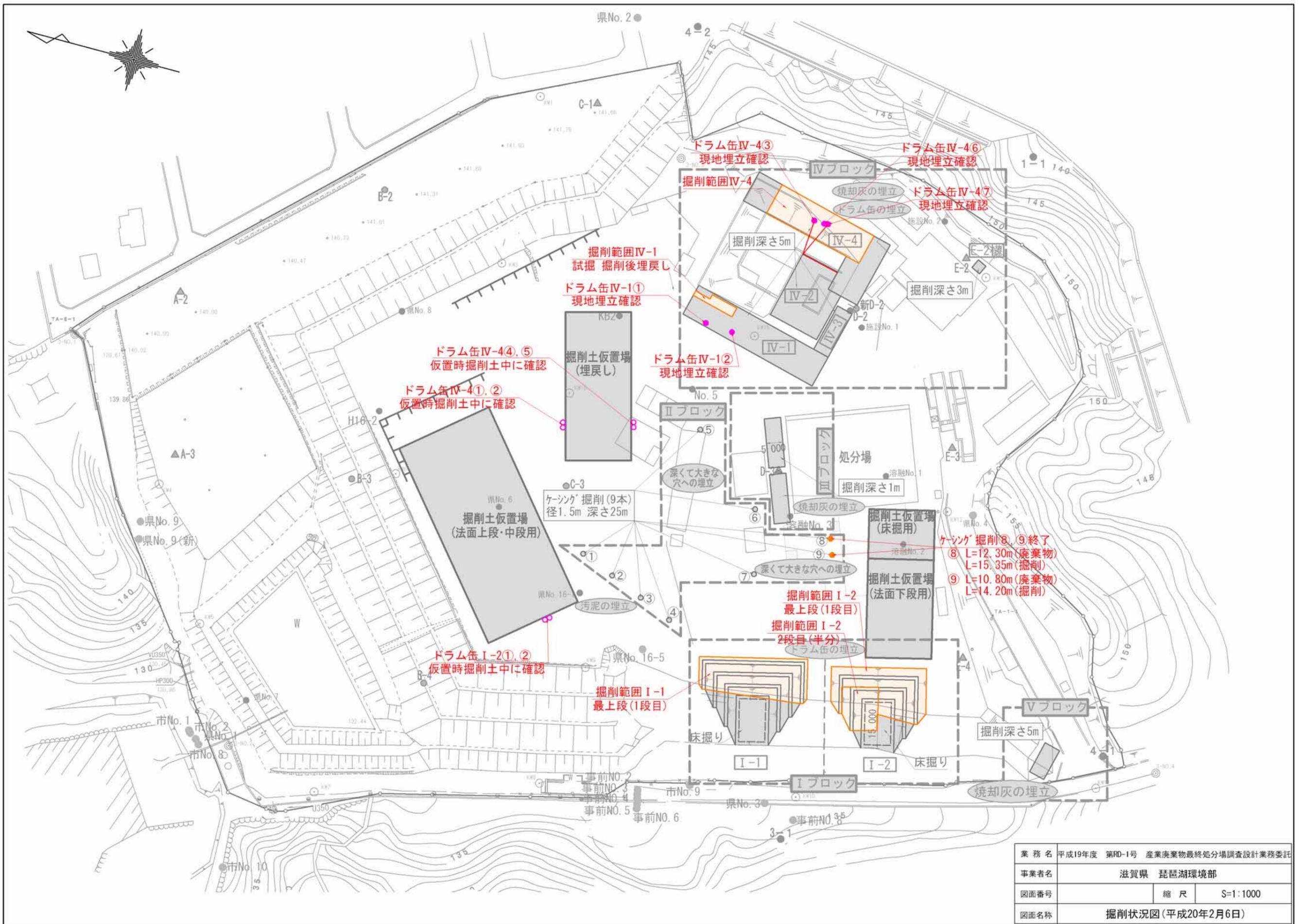


図2.1 掘削調査 状況図

< 掘削調査状況 写真集 >
(平成20年2月6日現在)

ブロックの1



全 景 (南側より望む)



全 景 (北側より望む)



掘削状況



掘削・積み込み状況



掘削状況



廃棄物の埋め立て状況



廃棄物の埋め立て状況



仮置シート養生の状況

ブロックの2



掘削状況



掘削状況



掘削状況



白い固形物



ドラム缶



ドラム缶



仮置きヤードの状況



仮置きヤード シート養生の状況